

2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明会資料 (2024年4月－2024年9月)

2024年11月18日

マルハニチロ株式会社(TSE:1333)



■2025年3月期 第2四半期(中間期)概況	P. 3～12
■今後の見通し・施策	P. 13～17
■海外事業の拡大をめざして	P. 18～25
■サステナビリティピックアップ	P. 26～32
■Appendix	P. 33～37

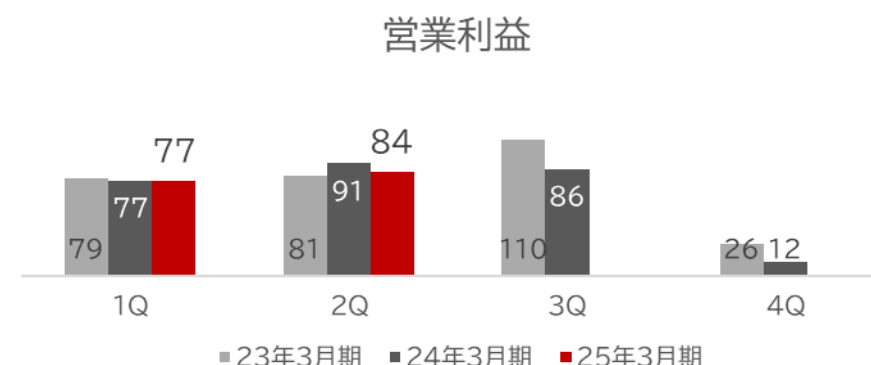
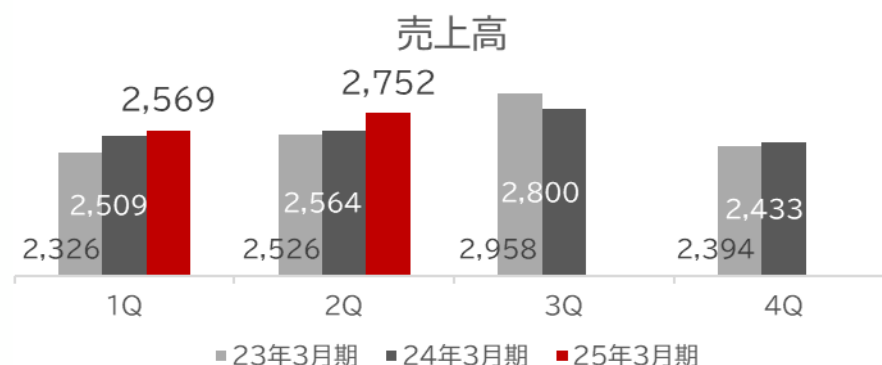
2025年3月期 第2四半期(中間期)概況

中間期 決算のハイライト

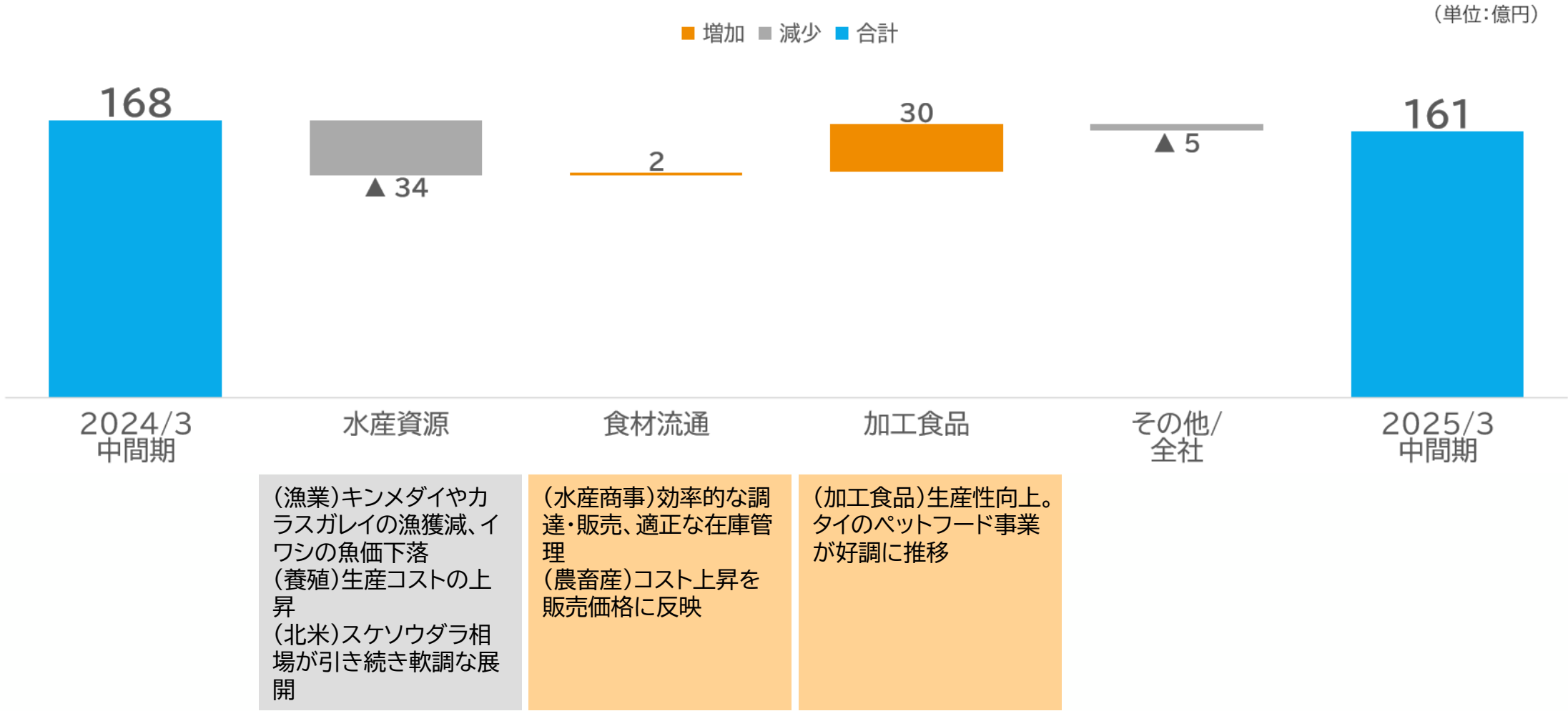
- <売上高> 水産資源セグメント・加工食品セグメントの販売数量増により、増収
- <営業利益> 加工食品セグメントのペットフード事業(タイ)が好調に推移したものの、水産資源セグメントの減益分をカバーしきれず、減益

(単位: 億円)

	25年3月期 中間期	24年3月期 中間期	前年対比		年間計画	
			増減	増減率	計画値	計画比
売上高	5,321	5,074	248	+4.9%	10,500	50.7%
営業利益 (営業利益率)	161 (3.0%)	168 (3.3%)	△ 7	△4.1%	300	53.6%
経常利益	157	209	△ 52	△25.0%	320	49.0%
親会社株主に帰属する中間純利益	138	109	29	+26.8%	220	62.8%
EBITDA	268	264	5	+1.8%	500	53.7%



中間期 営業利益の増減要因(前年対比)



水産資源セグメントは、前年対比で減益(セグメント営業利益: 1億円)

- 養殖ユニットは、高水温による養殖魚の成長遅れや飼料代などの高騰による原価上昇などにより、減益
(養殖ユニット営業利益 △3億円、前年対比 △13億円)
- 北米ユニットは、主力のスケソウダラ(北米)のすりみ・フィレの相場が軟調な展開が続き、減益
(北米ユニット営業利益 11億円、前年対比 △19億円)

食材流通セグメントは、前年対比で増益(セグメント営業利益: 71億円)

- 水産商事ユニットは、効率的な調達及び販売に努め、適正在庫の管理を徹底したことにより、増益
(水産商事ユニットの営業利益 33億円、前年対比 +5億円)

加工食品セグメントは、前年対比で大幅な増益(セグメント営業利益: 78億円)

- 加工食品ユニットは、ペットフード事業(タイ)が好調に推移し、増益
(加工食品ユニットの営業利益 73億円、前年対比 +30億円)

中間期 連結貸借対照表

(単位:億円)

	24年9月末	24年3月末	増減	主な内容(前期末比)
流動資産	4,241	4,050	192	現預金(+33)、売上債権(+73)、棚卸資産(+63)
固定資産	2,685	2,668	16	有形固定資産(+37)、無形固定資産(+16)、投資有価証券(△62)
資産合計	6,926	6,718	208	
流動負債	2,591	2,730	△139	仕入債務(+47)、短期借入金(△144)
固定負債	1,685	1,534	152	社債(+150)、長期借入金(+10)
負債合計	4,276	4,263	13	
株主資本	1,902	1,789	113	利益剰余金(+113)
その他包括累計	330	283	48	
非支配株主持分	418	384	34	
純資産合計	2,650	2,455	195	
負債純資産合計	6,926	6,718	208	
有利子負債	2,859	2,844	16	(社債+150を含む)
自己資本比率	32.2%	30.8%	1.4	

【資産の増加+208億円】

- ・魚介類、ペットフードの販売好調に伴う売上債権の増加
- ・季節要因による棚卸資産の増加
- ・機械設備などによる有形固定資産の増加

【負債の増加+13億円】

- ・仕入債務の増加

中間期 連結キャッシュ・フロー計算書

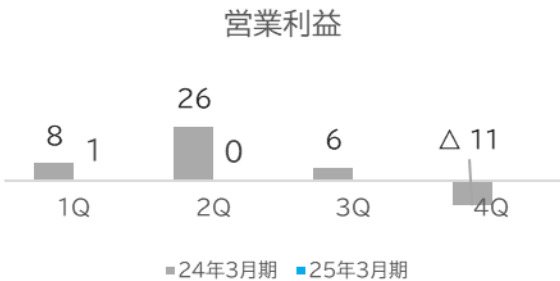
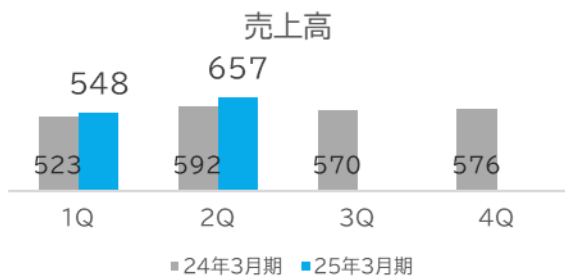
(単位:億円)

	25年3月期 中間期	24年3月期 中間期	増減	主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	89	89	1	・税金等調整前中間純利益 (231) ・減価償却費(のれん含む) (93) ・受取利息及び受取配当金 (△15) ・投資有価証券売却損益<益:△> (△71) ・売上債権の増減額<増加:△> (△41) ・その他流動負債の増減額<減少:△> (△39) ・法人税等の支払額 (△66)
投資活動による キャッシュ・フロー	30	△ 57	87	・有形固定資産の取得による支出 (△86) ・投資有価証券の売却及び償還による収入 (87) ・利息及び配当金の受取額 (19)
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 101	△ 69	△ 32	・短期借入金の増減額<減少:△> (△222) ・長期借入金の増減額<減少:△> (37) ・社債の発行による収入 (149) ・配当金の支払額 (△25) ・利息の支払額 (△23)
現金・現金同等物の 期末残高	406	312	94	—

養殖魚の原価上昇や、スケソウダラ相場(北米)の軟調な展開が続き、全体で99%減益

(単位:億円)

	ユニット	25年3月期 中間期 (A)	24年3月期 中間期 (B)	前年対比(A-B)	
				増減	増減率
売上高	漁業	209	183	26	+14.0%
	養殖	79	80	△ 1	△1.7%
	北米	918	852	65	+7.7%
	セグメント計	1,205	1,116	90	+8.0%
営業利益		1	34	△ 34	△98.5%
営業利益率(%)		0.0%	3.1%	△ 3.0	—



● 漁業

イカ・アジ(ニュージーランド)、カツオ(ミクロネシア)の漁獲増により増収。一方、キンメダイ(インド洋)やカラスガレイ(大西洋)の漁獲減、及びイワシ(日本近海)の魚価下落により損益悪化。

● 養殖

高水温による養殖魚の成長遅れや飼料代などの高騰による原価上昇などにより、減収減益。

● 北米

<北米>
マダラ製品などの販売数量増により増収も、主力のスケソウダラのすりみ・フィレの相場が引き続き軟調な展開が続き、利益率低下により減益。

<欧州>
高利益商材の販売に注力したこと、販売数量の拡大により、増収増益。

水産商事・農畜産における収益改善により、全体で3%増益

(単位: 億円)

	ユニット	25年3月期 中間期 (A)	24年3月期 中間期 (B)	前年対比(A-B)	
				増減	増減率
売上高	水産商事	1,459	1,472	△ 14	△0.9%
	食材流通	1,184	1,144	41	+3.6%
	農畜産	495	488	8	+1.6%
	セグメント計	3,138	3,103	35	+1.1%
営業利益		71	69	2	+2.8%
営業利益率(%)		2.3%	2.2%	0.0	—

● 水産商事

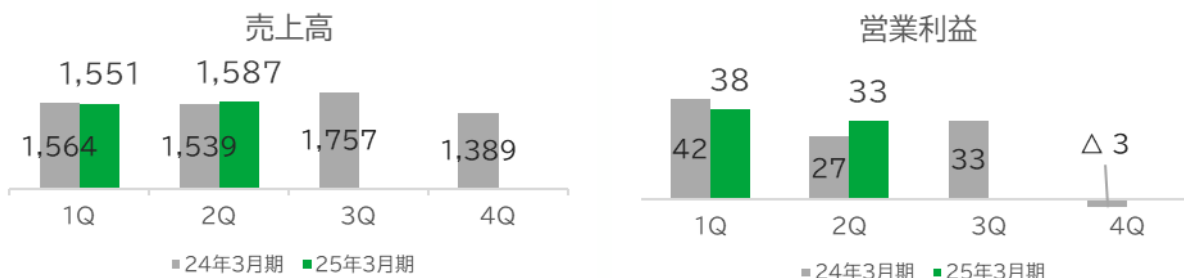
効率的な調達及び販売に努め、適正在庫の管理を徹底したことで、売上は前年並みも、増益。

● 食材流通

グループ内の連携を強化し販路拡大に努めたほか、量販・外食などへの販売が堅調に推移し、増収。一方、在庫削減・業務効率の改善や生産性向上に努めたものの、第1四半期までにおける円安の進行や原材料価格の上昇などによるコスト増加分を補いきれず、減益。

● 農畜産

輸入豚肉の生産国における減産を起因とする産地価格の高騰や、円安の進行などによるコストの上昇を販売価格へ反映できたことにより、増収増益。



生産性向上及び、ペットフード事業の北米向け販売が好調に推移し、全体で61%増益

(単位: 億円)

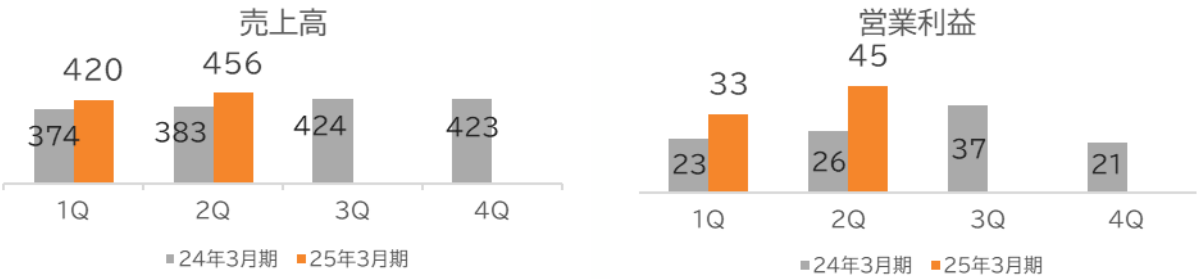
	ユニット	25年3月期 中間期 (A)	24年3月期 中間期 (B)	前年対比(A-B)	
				増減	増減率
売上高	加工食品	841	721	120	+16.6%
	ファインケミカル	36	37	△ 0	△1.2%
	セグメント計	877	757	120	+15.8%
営業利益		78	48	30	+61.2%
営業利益率(%)		8.9%	6.4%	2.5	—

● 加工食品

主力商品の販売増加及び広告宣伝の強化、ペットフード事業の販売好調が売上に寄与。また、生産性向上とペットフード事業(タイ)の、主に北米向け販売が好調だったことにより、増収増益。

● ファインケミカル

健康食品向けの販売が低調となったことにより減収した一方、医薬品向けの販売が底堅く推移し、営業利益は前年並み。



政策保有株式及び株主還元について

- 2026年3月期末を目安に、政策保有株式の3分の2以上の売却をめざす

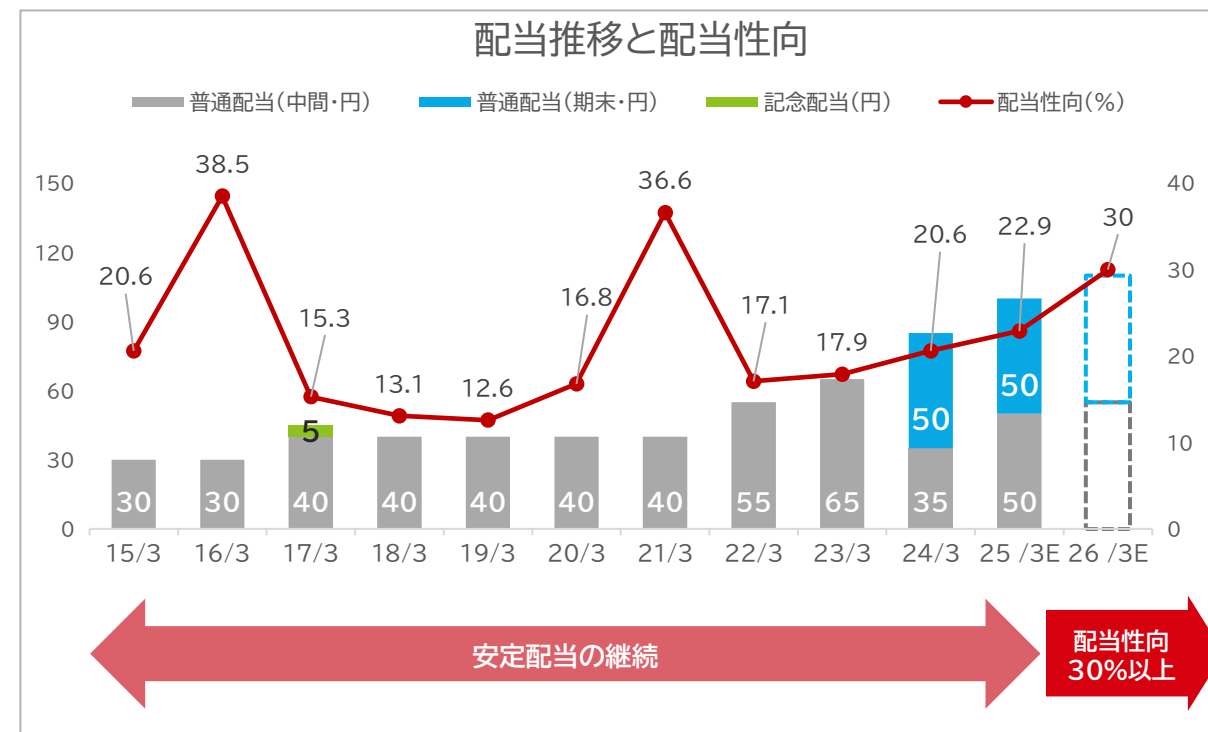
2025年3月期中間連結会計期間における動き

政策保有株式の売却(投資有価証券売却益 71億円)
・C&Fロジホールディングスの普通株式売却(61億円) ほか

株式持合い関係の見直しによる当社株式の売出し
(売出価額総額 約111億円※)

※オーバーアロットメントによる売出価額を含む

- ✓ 政策保有株式: 今後も売却による資産圧縮を進め、資本を有効活用する
(2026年3月期末を目安に、3分の2以上の売却をめざす)
- ✓ 売却資金使途: 成長投資・人財投資・株主還元などへの充当を検討
(来期より始まる次期中期経営計画にて公表予定)
- ✓ 配当: 中間 1株当たり50円/期末 1株当たり50円を検討(年間100円)
- ✓ 配当政策: 次期中期経営計画で公表予定(配当性向30%以上をめざす)
- ✓ 財務規律の維持を前提に、株主価値の向上に向けた施策を随時検討



今後の見通し・施策

- 水産資源セグメントの厳しい事業環境は、下期も継続する見込み
- 食材流通セグメント及び加工食品セグメントは堅調に推移
- 通期計画の達成に向けて、下期も着実に施策を遂行していく

(単位: 億円)

	25年3月期 中間期	25年3月期	年間計画比
売上高	5,321	10,500	50.7%
営業利益	161	300	53.6%
経常利益	157	320	49.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	138	220	62.8%

厳しい事業環境は継続するも、コスト低減策や生産性の向上に努める

(単位: 億円)

	ユニット	25年3月期 中間期	計画対比	
			25年3月期	進捗率
売上高	漁業	209	462	45.2%
	養殖	79	166	47.5%
	北米	918	1,800	51.0%
	セグメント計	1,205	2,428	49.6%
営業利益		1	75	0.7%
営業利益率(%)		0.0%	3.1%	—

● 漁業

燃油などコスト面での厳しい事業環境は継続する見込み。操業隻数・時期などを含めて操業体制を見直すほか、販売ルートを多様化させる。

● 養殖

飼料代の高値水準及びブリ相場の軟調は継続。原料価格の低減施策を進めながら、安定供給を軸とした販売価格の安定化、アジアを中心とした輸出拡大に注力し、原料価格・販売価格ともに相場連動性の低減に努める。

● 北米

<北米>

スケソウダラの相場は、引き続き軟調な展開ではあるものの、市場における供給量の変化により上向きつつある。消費は底堅い一方、事業コストは高止まり。生産及び販売アイテムの最適化と生産効率の最大化を図る。

<欧州>

水産物は全般的に軟調な相場が継続する見込み。寿司ネタやアジアンフードなどを中心に販売を強化し、販売数量を拡大させる。

生産・調達コストの上昇を懸念。顧客起点のもと、環境の変化に速やかに対応していく

(単位: 億円)

	ユニット	25年3月期 中間期	計画対比	
			25年3月期	進捗率
売上高	水産商事	1,459	2,858	51.0%
	食材流通	1,184	2,459	48.2%
	農畜産	495	849	58.3%
	セグメント計	3,138	6,166	50.9%
営業利益		71	100	71.2%
営業利益率(%)		2.3%	1.6%	—

● 水産商事

輸入水産物の供給は概ね安定している一方、為替の動向が不透明なことに加え、物流費の上昇により、国内における水産物の販売価格は高止まり。効率的な調達と販売により適正在庫の徹底を図るとともに為替リスクを回避するほか、グループ内協業を一層加速させ、強固な事業基盤を構築する。

● 食材流通

引き続き生産コストの上昇を懸念。グループ内連携の強化、業務効率の改善・生産性の向上に努めるほか、生産・販売両面での効率化を推進し、全体最適を図る。

● 農畜産

調達コストは高値水準が継続するも、国内市場は低価格志向が継続。国内外の調達網を活用して変動する環境への適時対応に努める。

ペットフード事業(タイ)は好調に推移する見込み

(単位:億円)

	ユニット	25年3月期 中間期	計画対比	
			25年3月期	進捗率
売上高	加工食品	841	1,630	51.6%
	ファインケミカル	36	81	44.9%
	セグメント計	877	1,712	51.2%
	営業利益	78	118	66.1%
	営業利益率(%)	8.9%	6.9%	—

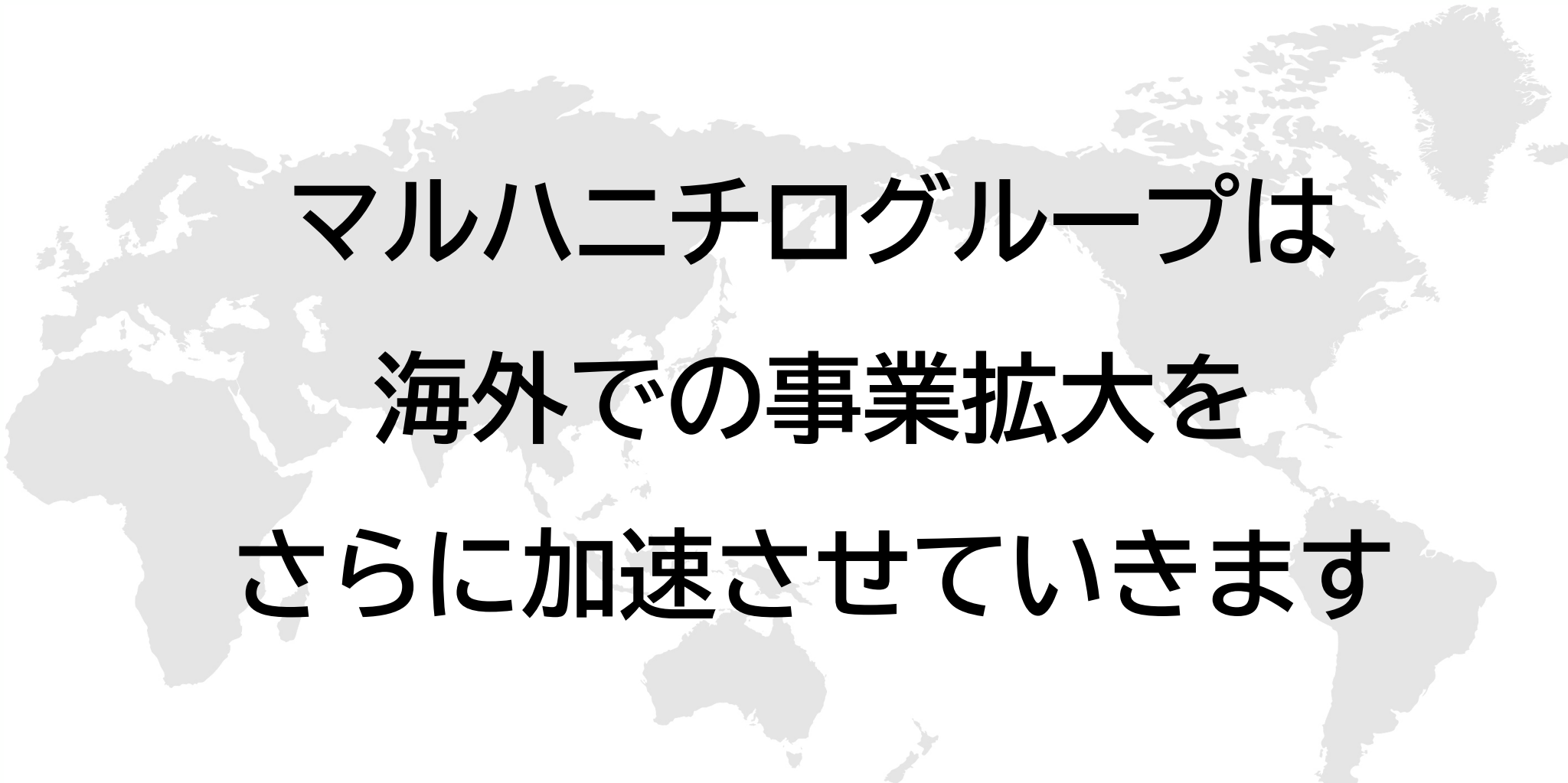
● 加工食品

さらなる生産性の向上及び広告宣伝を強化するほか、家庭用冷凍食品(国内)が9月に価格改定を実施。国内加工食品事業は堅調な販売を維持。ペットフード事業(タイ)は好調に推移する見込み。

● ファインケミカル

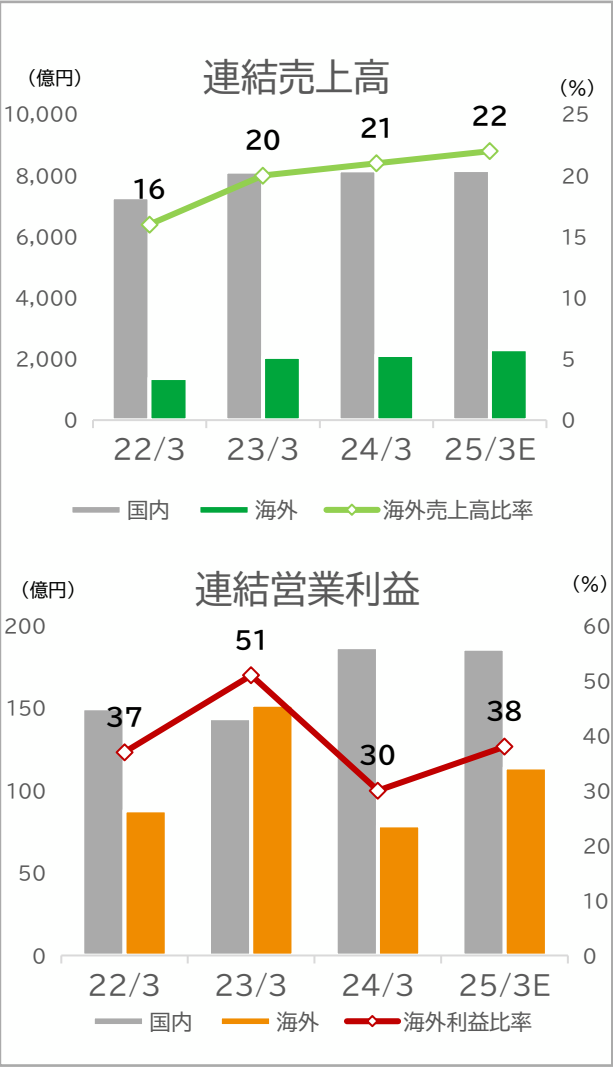
インバウンド需要の未回復やサプリメントなど健康食品の需要低下など、厳しい事業環境の継続を見込む。既存品の拡販や藻由来のDHAなど新規の取組みを進める。

海外事業の拡大をめざして



マルハニチログループは
海外での事業拡大を
さらに加速させていきます

主要な海外事業



成長を続ける欧州事業(シーフードコネクション)

- 地続きで多数の国がつながる欧州は、異なる民族、文化(言葉・慣習)、食が混在
- 各地の事情に精通したプロフェッショナルを据え、事業拡大を進める



欧州事業の概要 Seafood Connection Holding B.V.

所在地: オランダ ユルク市(本社)
事業内容: シーフードコネクショングループ(主に冷凍水産物販売)の持株会社
水産物消費の多い国々に販売拠点や生産拠点を構える
所属: 水産資源セグメント・北米ユニット
当社持分: 70%
資本参加: 2013年6月(2014年3月期)

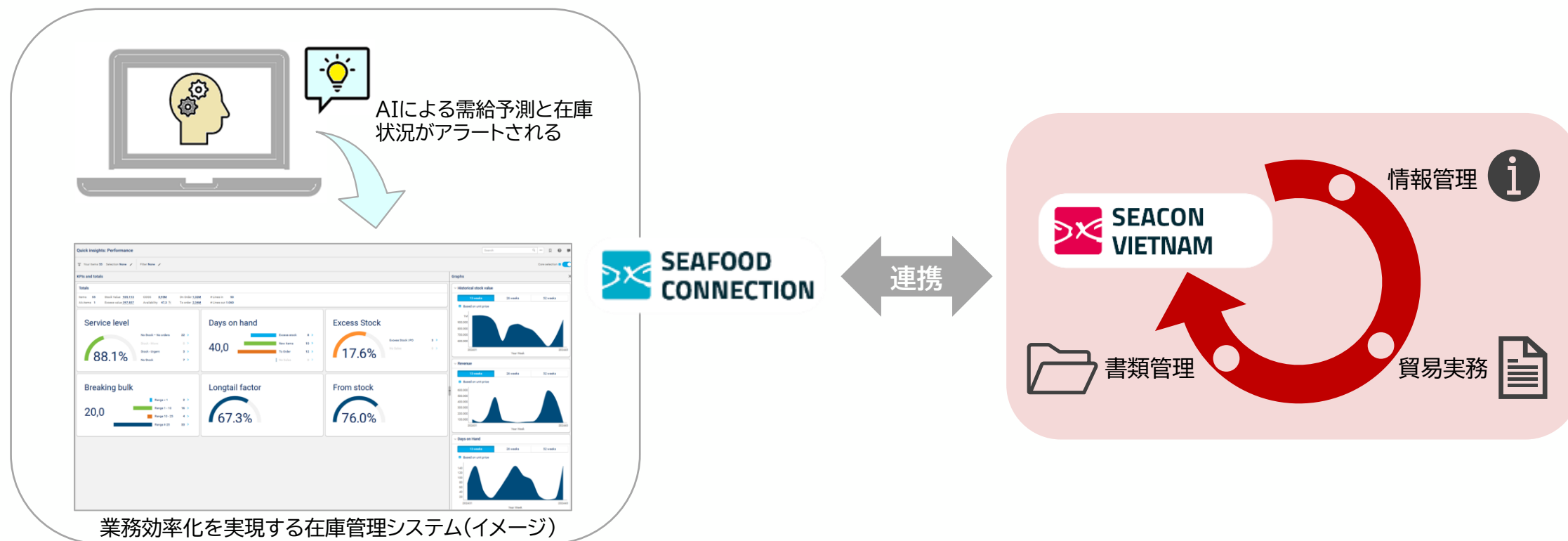


シーフードコネクションの強み①

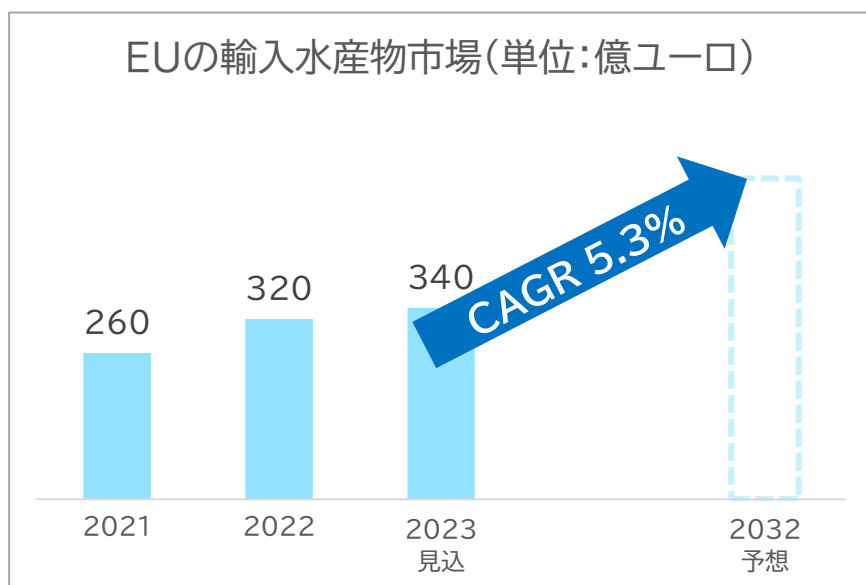
- 戦略的なM&Aと投資後のPMIによる統合効果
- 産地から消費地まで、一気通貫で一元管理するビジネスモデル構築
- 欧州の高い要求にこたえるサステナビリティの取組み



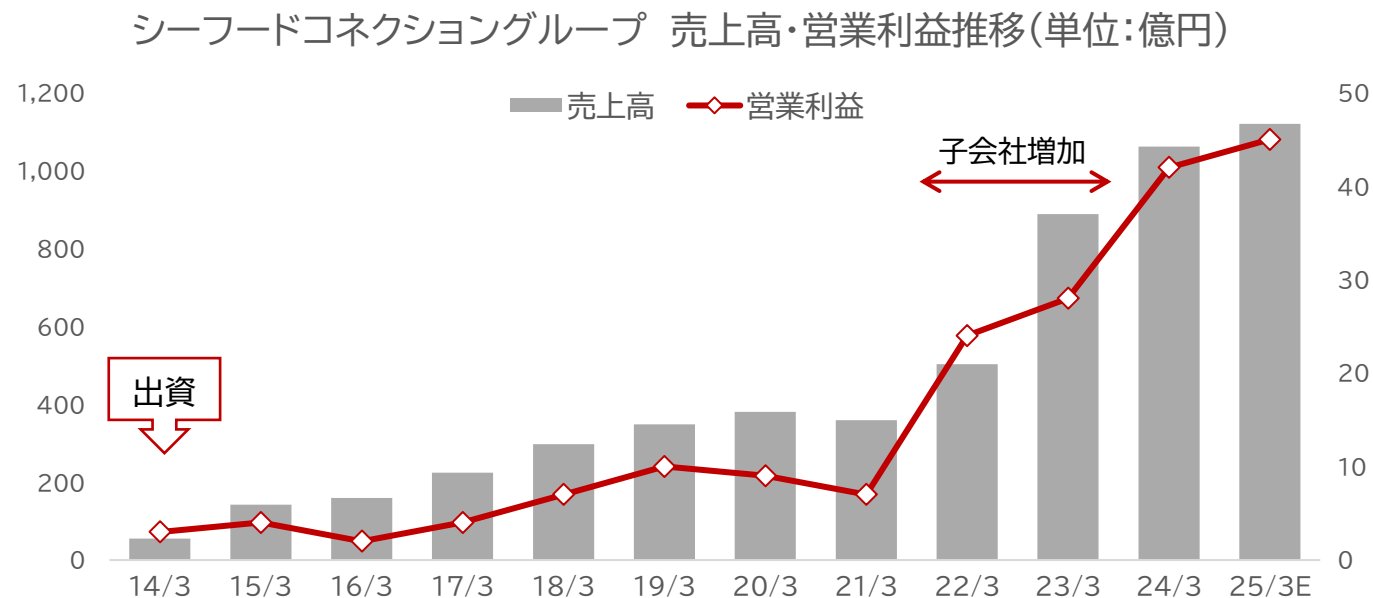
- AI技術による需給予測を利用した仕入・在庫管理 ⇒ キャッシュ・コンバージョン・サイクルの圧縮



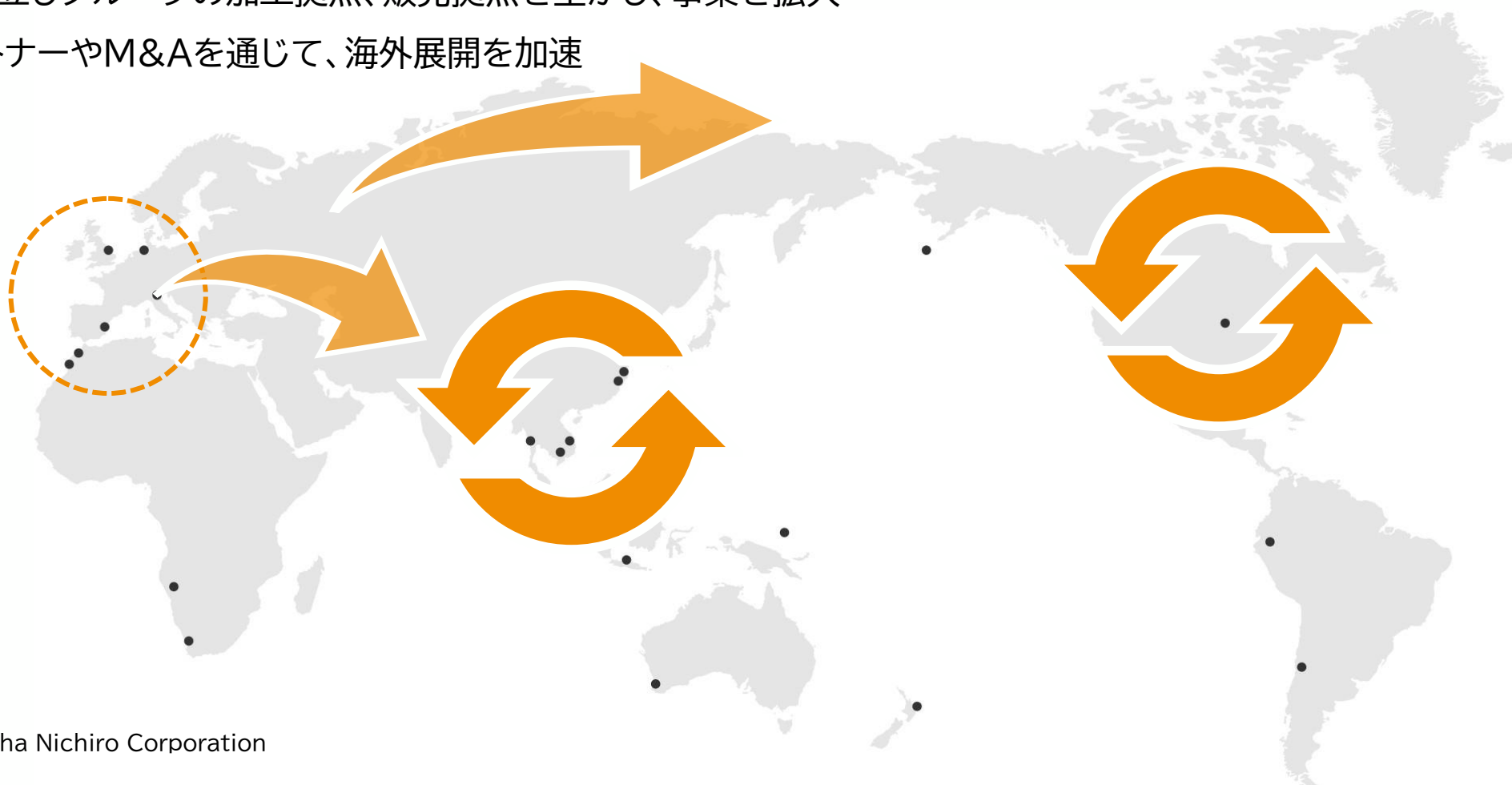
- 連結化した子会社のガバナンス強化
- 生鮮水産物・高次加工食品への事業領域拡大
- マルハニチログループとしての連携強化による価値最大化



出所: The EU fish market-2023 report(eumofa.eu)



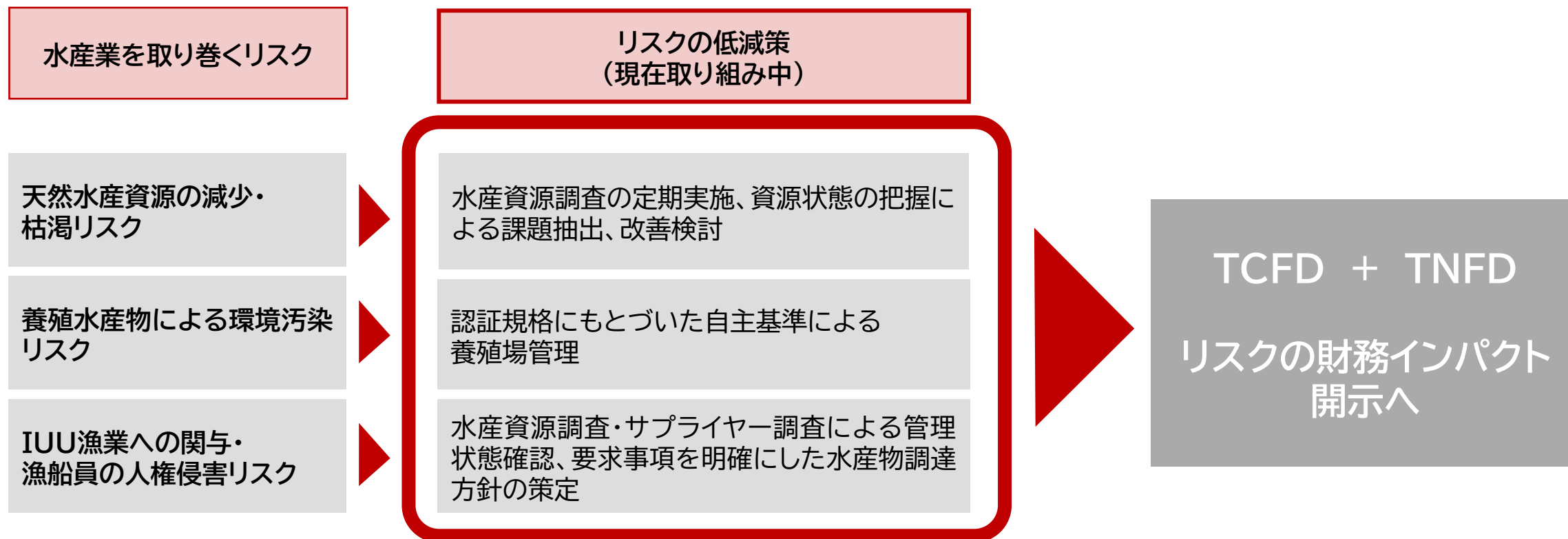
- 欧州の事例を他エリアに横展開し、海外市場を開拓
- RHQを設立しグループの加工拠点、販売拠点を生かし、事業を拡大
- 現地パートナーやM&Aを通じて、海外展開を加速



サステナビリティピックアップ

TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)への対応①

水産物に対する各種リスクへの低減策に取り組むとともに、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)フレームワークやTNFDフレームワークに沿ったリスクの財務インパクトの開示を推進



TNFDフレームワークの4つの柱

4つの柱	ガバナンス	戦略	リスクと影響の管理	指標と目標
推奨 開示内容	自然関連の依存・影響・リスク・機会に係る組織のガバナンスについて	依存・影響・リスク・機会に係るビジネスモデル・戦略・財務への影響について	依存・影響・リスク・機会をどのように評価・優先付け・管理するかについて	依存・影響・リスク・機会を評価・管理する際の指標と目標について

開示内容

- ・サステナビリティ推進体制
- ・生物多様性に関連するイニシアチブ加盟
- ・有識者と当社役員との生物多様性に関する対談



開示内容

LEAPアプローチにもとづく分析

- ・分析対象のスコーピング
- ・**Locate**(影響を受けやすい地域の特定)
- ・**Evaluate**(影響を受けやすい地域における自然資本への依存度・影響度の分析)

未開示 (来年度開示)

LEAPアプローチにもとづく分析

- ・**Assess**(リスクと機会の財務インパクトの分析)
- ・**Prepare**(特定したリスクと機会の対応策の検討と開示)

開示内容

- ・リスクマネジメント体制

Evaluate: マルハニチロの天然水産物取扱量と養殖生産量(原魚換算)
※第2回水産資源調査結果(2022年度)

品名	割合
スケソウダラ	38%
マイワシ	9%
カサツ	6%
ビンナガマグロ	4%
マサバ	3%
キハダマグロ	2%
ホタテガイ	2%
アンチョビ	2%
アメリカオアカイカ	2%
その他	31%

品名	割合
ブリ	37.0%
クロマグロ	22.5%
サーモン	39.5%
マダイ	0.8%
フ	0.1%

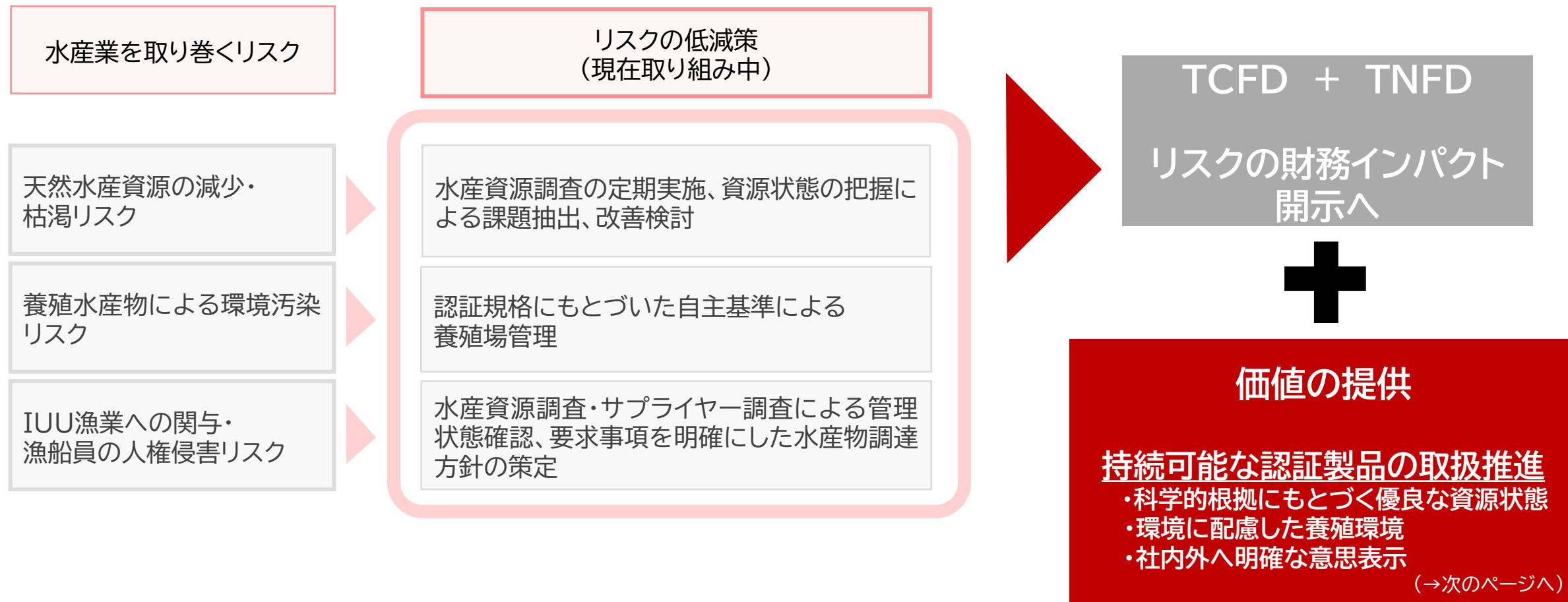
未開示(来年度開示)

TNFD分析結果は
こちら



TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)への対応③

水産物に対するリスクの低減だけでなく、持続可能という+αの価値を顧客へ提供



<2030年度マルハニチロがめざす姿>

取扱水産資源について、資源枯渇リスクがないことの確認率 **100%**

+

「水産製品・水産物が使用されている加工食品」の売上金額のうち、
GSSI※¹で承認された認証製品※²の売上金額比率 **15%以上**

※¹ GSSI(Global Sustainable Seafood Initiative)で承認された主な認証は、MSC認証(漁業)、ASC認証(養殖)、BAP認証、MEL認証など

※² 認証製品は水産エコラベルを付けた市販用製品に加え、認証製品として顧客に販売する業務用製品(原料含む)を対象とする



★ Processor
★ Farm



本件に関する詳細はこちら
(統合報告書へ)





世界の大手水産会社が参画する、海洋管理のためのグローバルなイニシアチブ SeaBOS(Seafood Business for Ocean Stewardship)。グローバルな視点で世界の海洋管理の保全、IUU(違法、無報告、無規制)漁業や強制労働などの課題解決に積極的に取り組んでいます。

SeaBOSの取組み(タスクフォース)

- ・IUU漁業、強制労働・児童労働排除への取組み
- ・絶滅危惧種への取組み
- ・抗生物質使用削減への取組み
- ・気候変動対策への取組み
- ・海洋プラスチック問題への取組み



SeaBOS Keystone Dialogue CEO会議 2024月10月 開催地:アヌシー・フランス

トピックス) 2つのKeystone Projectsの取組み(2023年10月~)

<Antimicrobial Resistance (AMR) Keystone Project>

養殖における抗菌薬耐性遺伝子の試験プロトコルを開発するためのプロジェクト。



<West Coast Africa Keystone Project>

西アフリカ諸国(モロッコ、モーリタニア、セネガル)における、IUU漁業と現代奴隷制のリスクに対処するために、漁業サプライチェーンのトレーサビリティと透明性を向上させるための重要なプロジェクト。





■特集テーマ1

「次の100年に向けて、水産物を持続的に提供するためのマルハニチログループの使命」



■特集テーマ2

「健康価値創造と持続可能性に貢献する食の提供プロジェクト」



■特集テーマ3

「誰ひとり取り残さないサプライチェーンの構築に向けて」



左記QRコードまたは下記URL
よりご覧ください。
<https://www.maruha-nichiro.co.jp/corporate/sustainability/report/>

Appendix

2025年3月期中間期 連結損益計算書

(単位:億円)

	25年3月期 中間期	24年3月期 中間期	増減	主な内容
売上高	5,321	5,074	248	
売上原価	4,588	4,377	211	
売上総利益	733	696	37	
販売費・一般管理費	573	529	44	
営業利益	161	168	△ 7	
営業外収益	30	60	△ 30	
営業外費用	34	19	15	為替差損(10)
経常利益	157	209	△ 52	
特別利益	77	2	75	投資有価証券売却益(71)
特別損失	3	32	△ 29	
税金等調整前中間純利益	231	179	53	
法人税等	62	56	6	
非支配株主に帰属する中間純利益	31	14	18	
親会社株主に帰属する中間純利益	138	109	29	

2025年3月期中間期 セグメント・ユニット別

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売 上 高				営 業 利 益						経 常 利 益			
		25年3月期中間期 (A)	24年3月期中間期 (B)	前年対比(A-B)		25年3月期中間期 (C)		24年3月期中間期 (D)		前年対比(C-D)		25年3月期中間期 (E)	24年3月期中間期 (F)	前年対比(E-F)	
				増減	増減率		営業利益率		営業利益率	増減	増減率			増減	増減率
水産資源	漁業	209	183	26	+14.0%	△ 8	—	△ 6	—	△ 1	—	1	1	△ 0	△2.5%
	養殖	79	80	△ 1	△1.7%	△ 3	—	10	12.8%	△ 13	—	△ 1	12	△ 13	—
	北米	918	852	65	+7.7%	11	1.2%	30	3.5%	△ 19	△64.4%	△ 1	34	△ 35	—
	セグメント計	1,205	1,116	90	+8.0%	1	0.0%	34	3.1%	△ 34	△98.5%	△ 1	47	△ 48	—
	(国内 内訳)	325	341	△ 16	△4.7%	△ 13	—	13	3.8%	△ 26	—	—	—	—	—
	(海外 内訳)	880	774	106	+13.7%	13	1.5%	21	2.8%	△ 8	△37.2%	—	—	—	—
食材流通	水産商事	1,459	1,472	△ 14	△0.9%	33	2.2%	27	1.9%	5	+19.0%	32	31	1	+3.7%
	食材流通	1,184	1,144	41	+3.6%	28	2.4%	34	2.9%	△ 6	△16.8%	33	36	△ 3	△8.6%
	農畜産	495	488	8	+1.6%	11	2.1%	8	1.7%	2	+28.6%	14	13	1	+10.1%
	セグメント計	3,138	3,103	35	+1.1%	71	2.3%	69	2.2%	2	+2.8%	79	80	△ 1	△0.8%
	(国内 内訳)	3,119	3,084	35	+1.1%	72	2.3%	70	2.3%	2	+3.5%	—	—	—	—
	(海外 内訳)	19	19	△ 0	△2.4%	△ 1	—	△ 0	—	△ 0	—	—	—	—	—
加工食品	加工食品	841	721	120	+16.6%	73	8.6%	43	6.0%	30	+68.7%	68	44	24	+55.2%
	ファインケミカル	36	37	△ 0	△1.2%	5	14.7%	5	14.5%	0	+0.2%	5	5	0	+5.1%
	セグメント計	877	757	120	+15.8%	78	8.9%	48	6.4%	30	+61.2%	73	49	24	+50.1%
	(国内 内訳)	588	561	27	+4.8%	28	4.8%	40	7.2%	△ 12	△29.8%	—	—	—	—
	(海外 内訳)	289	197	93	+47.1%	50	17.2%	8	4.1%	42	+511.2%	—	—	—	—
	物流	91	90	0	+0.4%	15	16.0%	15	16.6%	△ 0	△3.2%	14	14	△ 1	△3.6%
	その他	10	7	3	+50.6%	8	78.9%	5	69.2%	3	+71.6%	8	5	3	+65.7%
	全社	—	—	—	—	△ 12	—	△ 4	—	△ 8	—	△ 16	14	△ 31	—
	合計	5,321	5,074	248	+4.9%	161	3.0%	168	3.3%	△ 7	△4.1%	157	209	△ 52	△25.0%
	(国内 内訳)	4,124	4,075	49	+1.2%	92	2.2%	135	3.3%	△ 43	△31.8%	—	—	—	—
	(海外 内訳)	1,197	998	199	+19.9%	69	5.7%	33	3.3%	36	+110.1%	—	—	—	—

【参考】直近4年間のセグメント・ユニット別

	売 上 高				営 業 利 益				(単位:億円)
	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (計画)	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (計画)	
漁業ユニット	315	422	385	462	3	18	△10	20	
養殖ユニット	146	159	160	166	0	16	7	4	
北米ユニット	1,013	1,529	1,716	1,800	36	56	32	52	
水産資源セグメント 計	1,474	2,109	2,261	2,428	39	90	29	75	
(国内 内訳)	572	670	649	699	3	18	1	4	
(海外 内訳)	902	1,439	1,612	1,729	35	72	29	72	
水産商事ユニット	2,798	3,093	2,981	2,858	46	35	25	40	
食材流通ユニット	1,948	2,238	2,344	2,459	21	25	62	48	
農畜産ユニット	711	860	924	849	7	8	13	12	
食材流通セグメント 計	5,457	6,191	6,249	6,166	74	69	100	100	
(国内 内訳)	5,437	6,158	6,214	6,123	74	72	101	98	
(海外 内訳)	20	33	35	44	0	△3	△1	1	
加工食品ユニット	1,497	1,647	1,525	1,630	95	98	95	105	
ファインケミカルユニット	68	78	79	81	15	14	11	13	
加工食品セグメント 計	1,566	1,724	1,604	1,712	110	112	106	118	
(国内 内訳)	1,121	1,136	1,132	1,180	56	30	64	63	
(海外 内訳)	444	589	471	531	54	82	42	55	
物流	166	176	176	176	11	16	23	18	
その他/全社	4	4	17	18	5	9	7	△ 11	
合計	8,667	10,205	10,307	10,500	238	296	265	300	
(国内 内訳)	7,292	8,131	8,172	8,181	150	144	187	186	
(海外 内訳)	1,375	2,073	2,134	2,319	88	152	79	114	

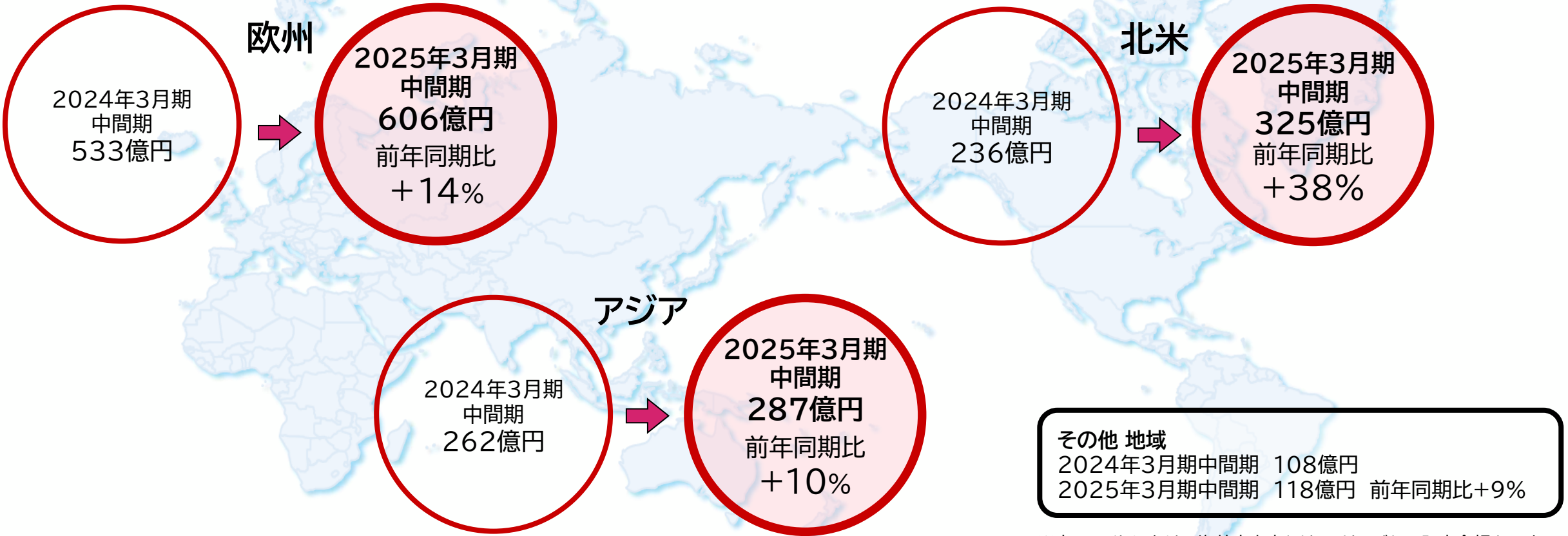
※当スライドの数値は、参考情報として作成(2022年3月期数値は概算)

※国内…マルハニチロ(株)+国内連結子会社の合計、海外…海外連結子会社の合計

2025年3月期中間期 海外売上高

海外売上高	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	2025年3月期 (中計当初計画)
	1,139億円	1,336億円	2,150億円

海外売上高 比率	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	2025年3月期 (中計当初計画)
	22.4%	25.1%	22.4%



その他 地域
2024年3月期中間期 108億円
2025年3月期中間期 118億円 前年同季比+9%

※本スライドにおける海外売上高とは、エリアごとの販売金額を示す

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。